

(一社)長野県針灸師会 2019年度 公益活動一覧

8月18日	フィジカルアセスメント講習会	長野県看護大学
8月25日	第41回『健康づくりのつどい』(諏訪)	茅野市民館
8月31日	上田市防災訓練 はりきゅう体験実施(東信)	上田市真田体育館
9月4日	第23回親子スキンタッチ教室(飯伊)	ゆるり飯沼
9月29日	松本市健康フェスティバル 出展(中信)	イオンモール松本
9月29日	第7回信州駒ヶ根ハーフマラソンボランティア(上伊那)	駒ヶ根総合文化センター
10月6日	松本マラソン 救護 ※	信州スカイパーク体育館
10月19日	災害支援鍼灸ボランティア ※	佐久穂町『茂来館』
10月23日	第24回親子スキンタッチ教室(飯伊)	アイキッズいくら保育園
11月3日	第25回親子スキンタッチ教室(飯伊) ※	飯田市伊賀良公民館
11月17日	第64回信州大学医学部学術講習会 ※	信州大学医学部 旭総合研究棟
11月27日	第26回親子スキンタッチ教室(飯伊)	竜丘0歳児学級
12月8日	災害支援鍼灸ボランティア ※	佐久穂町『茂来館』
2月4日	第27回親子スキンタッチ教室(飯伊)	アイキッズいくら保育園
2月11日	白田地区健康と福祉の集い	あいとぴあ白田
2月16日	災害支援鍼灸ボランティア ※	佐久穂町『茂来館』

※は添付書類有

提出日 令和2年6月24日

提出者 (一社)長野県針灸師会 事業担当業務執行理事 有賀大祐

## 第 33 回松本市健康フェスティバル 針灸ブース出展報告

2019年9月29日、イオンモール松本において松本市健康フェスティバルが行われた。針灸師会のブースとして、来場者に針灸の効果と衛生対策について説明の後、簡易的な気血津液弁証を取り、東洋医学的な観点から自身の体質について知ってもらった上で150名の方に針の施術体験を実施した。

松本市健康フェスティバルは、松本市医師会長が実行委員長を務め、医師会、信州大学医学部附属病院、歯科医師会、薬剤師会、看護協会など医療団体も出展を行い、市民だけでなく医療関係者も多く参加している。針灸師会のブースは、医師や看護師など医療関係者も多く訪れ、初めて毫針を見る医療関係者も多く、針の細さと刺入時に痛みがないことに驚かれ、つぼや針に関心が集まった。



第3回松本マラソンの公益事業報告です。

令和元年10月6日（日） 第3回松本マラソン鍼医療ケア活動報告

長野県鍼灸師会として、松本市スカイパーク体育館にて、150名を超えるランナーの方に鍼、ストレッチ、テーピング、アイシングを実施した。

受療者の内訳として、大腿部、下腿部の筋緊張が強い方が多く、合わせて腰痛の方が多かった。

コース途中の第5、6救護所へも会員を派遣し、医師、看護師と協力して筋痙攣、肉離れ等のケアを行った。

また、フィニッシュ後、競技場近くで筋痙攣、嘔吐等で、歩行不能になっている選手については、柔道整復師会と協力して、医療救護所へ搬送した。

ケア実施後にアンケートを行い、鍼医療ケアを受けられたランナーの方々から、「下肢の痛みが軽くなった」「筋緊張緩和して楽になって帰られる」等のご感想をいただきました。



## (一社)長野県針灸師会 第25回親子スキンタッチ教室

2019年11月3日(日) 14:00~15:00 : 飯田市伊賀良公民館大会議室

◇一般参加親子21組(大人28名、子供26名)

◆鍼灸師27名

- ・日本スキンタッチ協議会標準のスキンタッチ法の説明、実技指導、小児鍼啓蒙
- ・『“子育て支援事業”を応援し、“親子スキンタッチ教室”を開いて地域住民とかかわり、鍼灸師の地位向上』





第64回信州大学医学部講習会を松本市で開催。

一般社団法人長野県針灸師会（会長安田政寛）は、11月17日に信州大学医学部旭総合研究棟において頸椎周辺疾患から側弯症をテーマに講習会を行った。

頸椎周辺疾患の鍼灸治療として、埼玉医科大学東洋医学科の山口智講師は埼玉医科大学における病鍼連携の実際を紹介し、鍼灸のエビデンスについて実技を交えて講演した。

山口講師の講義は随所にウィットに富んだジョークが散りばめられ、2時間の間受講者の興味を引き続けた。頸部疾患において「首はネックである」とのこと。実技は鍼通電を用いた神経や筋を目的とする的確な手技を披露して頂き、目標とする筋の収縮や鍼先の深さによって収縮する筋が変わる様子に受講者の感嘆の息が会場に漏れ響いた。

埼玉医科大学は全国でも指折りの病鍼連携が行われている現場なので鍼灸の現代医学的な捉え方と説明は説得力に溢れ、今後病鍼連携を目指していく上で必要な考え方の指針となるのだと感じた。

信州大学医学部脳神経外科の伊東清志講師は、信州大学医学部における頸椎疾患の診断治療として、頸部から上肢にかけての痺れのメカニズムと椎骨人工椎体置換術について説明して頂いた。

頸部から上肢に関しての痺れについては自作のアニメーションしびれたろうくんを用いて説明し、手術の方法として除圧固定術の前方到達法、後方到達法についてそれぞれの特徴やメリットデメリットや脊髄腫瘍の手術を説明頂いた。特に術中動画において脊髄が拍動している事、固定術後12年経過しているCT画像を見れた事は鍼灸師が目にする機会が稀であり、大変驚かされた。

また全国でも数の少ない人工椎体置換術について術中動画を交えて解説した。当然人工椎体自体のメカニズムも、椎体からの荷重により適切な位置にスライドする仕組みがあり素晴らしいのだが、その人工椎体置換術をするために求められる技術も非常に高く信州大学において高度な医療が受けられる事を強く知ることとなった。

運動機能学教室の高橋淳准教授は、専門とする側弯症について講演した。高橋准教授は昨年も脊柱管狭窄症について講演を頂き大変好評であり、今年は専門分野での講義となった。側弯症については学校検診で行われている視診法の解説し早期発見の重要性と、最新の側弯症の診断を講義いただいた。手術では常に「自分の娘だったらどういう治療をするか」を考え、できるだけ低侵襲の術式を用いており、その中で開発されたナビゲーションシステムを導入した固定術では高精度で手術時間も短く安全な手術となり多くの患者さんの助けとなっている事を知った。脊椎の大きな変形によって生じている症状に対して鍼灸が貢献できる事は少なく手術でダイナミックに治療する必要性を感じ、患者さんに対しても安全であるという説明が自信を持ってできる事は今回の講義の意義であると感じた。

こういった医師からの最新の医療の動向を聞ける講習会が過去63度も行われている事

に感謝しつつ、この繋がりが後身へと続くよう望むばかりである。

(報告 長野県針灸師会 吉澤孔明)



# 長野県佐久穂町災害支援報告

令和2年3月7日  
一般社団法人 長野県針灸師会  
青年部長・東信地区担当理事  
新井孝士

令和元年10月12日から13日にかけて北上した台風19号により、東日本において記録的な大雨が発生し、長野県佐久穂町内を流れる抜井（ぬくい）川、余地（よじ）川の氾濫により崩落した道路や傾いた家屋など浸水や倒壊等で大日向地区は特に大きな被害が出た。令和元年10月16日から令和2年2月16日までの長野県針灸師会による鍼灸医療支援活動について報告をする。

支援活動開始まで

令和元年10月16日

佐久穂町役場の保健師の方から長野県針灸師会へ災害支援要請（鍼灸施術）

令和元年10月17日

## 先遣隊の派遣

先遣隊として新井理事を派遣。避難所に行き関係者の方と避難者数と衛生環境、施術場所等を確認。18日より自衛隊が簡易風呂を設置するため、避難者の方々に疲労が溜まってきているので一緒にケアして欲しいと再度要請される。

令和元年10月19日

## 第1回 支援活動

正午より佐久穂町生涯学習館「花の郷・茂来館」にて施術開始  
新井理事 工藤理事 井出勇次理事 大野会員 戸谷会員 石坂会員 6名参加  
天気が回復し被災者の多くは家の片付けのために避難所を出られ、避難所の人数は減少するが、夕方から避難所に戻られて施術希望者が増える。

鍼灸施術 計19名

主訴内訳 疲労9人 肩こり4人 腰痛5人 膝痛1人

慣れない環境のせいで不眠、腰痛など体調不良をきたす方が多い。

健康相談としてフィジカルアセスメントを用いて、高血圧や呼吸器疾患の疑いのある方を保健師に紹介。



## 第1回 支援活動写真



令和元年11月下旬

佐久穂町役場の方から12月8日に被災者を対象にした復興イベントへの協力要請あり。

令和元年12月8日

## 第2回 支援活動

14時～17時30分 佐久穂町生涯学習館「花の郷・茂来館」にて支援活動を行う  
大窪理事、有賀理事、今村理事、新井理事、加藤理事、吉澤理事、石坂会員、大村会員  
戸谷会員、岩船会員、小池会員 合計 11名参加

針施術 22名

主訴内訳 肩こり9人 腰痛6人 膝痛2人 疲労2人 肘痛1人  
頭痛1人 弾発指1人

今村理事の講演 受講者31名

ツボ教室と生活不活発病（深部静脈血栓症）対策の運動指導。

健康相談として、フィジカルアセスメントを用いて高血圧、深部静脈血栓症の疑いのある方

を保健師に紹介。

## 第2回 支援活動写真



令和2年2月16日

## 第3回支援活動

10時～16時 佐久穂町 茂来館

はり灸施術 75名

つば教室・深部静脈血栓症予防運動教室 28名

健康相談として、高血圧・不整脈・咳喘息の疑い、夜間頻尿のある方へ医療機関の受療を奨める。

### 第3回支援活動写真



### まとめ

台風19号の長野県内の被災は、県庁所在地である長野市に注目が集まり、佐久穂町の報道は長野市に比べると極めて少なかった。河川が氾濫し避難生活を余儀無くされた佐久穂町では仮設住宅は建設されなかったものの、被災による生活環境の変化や、住民移転によるコミュニティの再興が強く望まれている。

長野県針灸師会は、佐久穂町からの要請により今後も支援活動を予定している。肩こり、腰痛、不眠や生活不活発病のケア活動と合わせて、サロン活動により町民同士が顔を合わせる機会を設けることでのコミュニティの再興を支援する。

鍼灸施術を行う前やサロン活動の際に行なっている、フィジカルアセスメントを用いた健康相談で、循環器や呼吸器症状等を訴える被災者には、現地の医療機関や保健師さんへの橋渡しも行っている。

3月以降も、支援活動の継続を佐久穂町より要請されており、県師会として被災者支援のために会員を継続して派遣する予定である。